

千里の鳥・万博の鳥(第92回)「メジロ幼鳥」(2020年7月)

今月は先月に続き幼鳥、メジロを紹介する。

メジロは体長12cm、大阪近郊で一年中見られる留鳥では一番小さい鳥。その名の通り、目の周りにはっきりした白いアイサークルがあり、鳥を知らない人でも「メジロ」とわかる鳥である。体が小さいだけに動きが敏捷で愛らしく、誰にも愛される人気の小鳥である。

メジロは、①ウグイス餅の色はウグイスでなくメジロを模していること、②花札に描かれた「梅に鶯」は「梅に目白」の間違いでないかなど、ウグイスの代役をつとめていることも、人気の一因になっている。

メジロはそのほかにも、四季折々の楽しい話題を提供している。

春夏に花粉媒介の主役であるチョウ・ハナアブ・ハナバチは、変温動物で冬に動きにくい。初冬～早春に咲くビワ・サザンカ・ウメ・ツバキは、恒温動物の鳥に花粉媒介を依存しており、鳥媒花と呼ばれている。鳥媒花は鳥が好む甘い蜜を用意し待っているが、訪れる鳥は花に差し込める細長くくちばしを持つ鳥(メジロ・ヒヨドリ)である。メジロは細長くくちばしだけでなく、くちばしより長い舌を持ち、舌の先は蜜を集めやすいように筆のように分かれている。

また、鳥のさえずりを人の話し言葉にしてわかりやすく表すことを「聞きなし」といい、ウグイスの「法、法華経」は誰もが知っている聞きなしである。メジロの聞きなしには「長兵衛忠兵衛、長忠兵衛」や「チルチルミチル、青い鳥」などがある。何でそんなに違うのかと思われるが、「長兵衛……」や「チルチル……」を、実際に早口ことばで歌ってみると、どちらもメジロのさえずりらしく聞こえるようになるので、トライしてみるのも楽しい。

そして、子供が一行に並んで「押し合いへし合い」する遊びを「目白押し」と言い、メジロの行動から生まれたとのことであった。私(平)は2羽でのラブラブ姿は見たことがあったが、多数のメジロによる目白押しは見たことがなかった。しかし、10羽ほどのエナガ幼鳥が一つの枝に「目白押し」状態で並んでいたの、メジロの目白

押しもあるだろうと思っていた。今回、目白押しを調べてみると、昔、多数のメジロが愛玩用の狭い鳥かごで飼われた頃に、メジロが一行に並ぶ光景はよく見られたとのことで、屋外での目白押しの観察は少ないようである。群れで行動するメジロを見ることは多いので、「目白押し」を確認できたら、ラッキーと喜びたい。

さて、今月の写真はメジロ幼鳥、尾が短く巣立ち間近と思われるが、親が運んでくる餌(幼虫)を待っているようである。この幼鳥も今は若鳥となり、メジロ一家で飛びまわっている頃である。探鳥会は中止しているので、お近くでメジロの群を見たとき、独り立ちした若鳥を探してみませんか。

**** 写真 ****

種名:メジロ幼鳥

撮影日:2020年6月23日

場所:万博公園

撮影者:有賀憲介

探鳥会中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症防止への対応のため、2020年7月も探鳥会を中止することになりました。

今月の紙上バードウォッチングは

「メジロ幼鳥」

を楽しんでくださるよう、お願いします。

・日本野鳥の会大阪支部主催

~~万博公園定例探鳥会 7月11日(土)~~

・吹田野鳥の会主催

~~万博公園自然観察会 7月19日(日)~~

~~(野鳥・昆虫・樹木)~~

